

研究部通信



発行:令和3年12月16日(木)
 文責:研究部
 第7号「国語Aグループ」

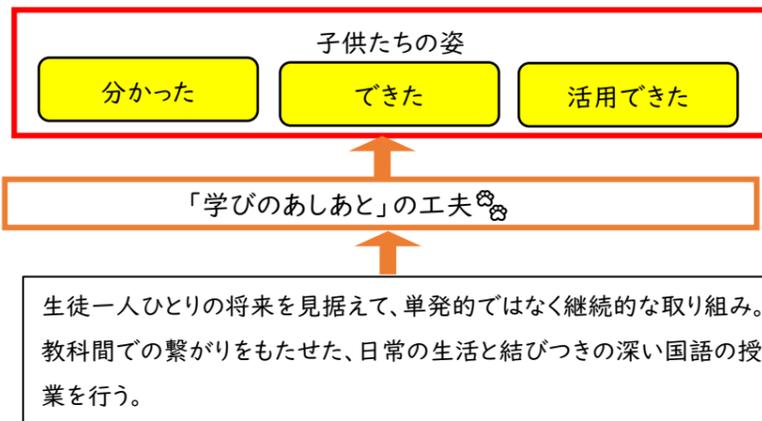
グループ研究、お世話になっています。いよいよまとめの時期となって参りました。よろしくお願いします。

グループ研究 各グループの研究紹介 ～国語Aグループ～

テーマ

日常生活に根ざした授業・教材づくりの研究

～研究の概要～



研究の流れ

- [1学期] ○実態報告
 - [2学期] ○実践報告会
 ○グループ内での授業研究
 ○各自報告会
 - [3学期] ○研究のまとめ
- ★「学びのあしあと」をどのように残すか検討、実践

～テーマ設定について～

国語の時間、または単元の中だけでの学びに終わらせることのないよう教科間、または、学部を超えての繋がりを持たせた授業や日常生活との結びつきに深い授業・教材研究に取り組むことを目標にテーマ設定をしました。

～研究の流れとして～

実態報告 → 教材紹介 → 検討 → 実践 → 報告会
 以降の実践に繋げていくために、学習内容の改善や、教材教具の工夫について話し合いました。



対象	中学部国語Bグループ(1年5人 2年3人 3年3人) 小3段階 2名 中1段階 9名
指導者	T先生
単元	物語を読もう
単元教材	あらしのよるに

1 単元の目標

知識・技能	A:挿し絵と結び付けて、登場人物の行動や場面の様子などを想像する。 B:物語に出てくる言葉を理解し、事柄を思い浮かべながら、大体の内容を捉える。
思考・判断・表現	A:時間的な順序に沿って表にまとめながら大体の内容を捉え、登場人物になったつもりで音読したり演じたりする。 B:時間的な軸で物語の内容を整理し、情景や場面の様子、登場人物の心情にあった読み方を工夫する。
学びに向かう人間性	A:言葉がもつよさを感じるとともに、言葉で表現することを楽しみながら、自分のイメージを具体化しようしたり、友達の発表を聞いたりする。 B:言葉がもつよさに気付くとともに、場面の様子や登場人物の心情を想像したり、友達の意見や発表を聞いて思ったことを伝えたりする。

2 単元計画

授業日	内容	知	思	学
9/9	①「あらしのよるに」を聞く。(読み聞かせ)※導入としてヤギとオオカミの紹介をする。(ひづめ、肉食草食) ②今後の展開を予想、発表(廊下に掲示する) 【目標】「あらしのよるに」を聞いて、予想しよう			
9/24	・大喜利紹介(スライドで提示する。) ①「あるはれたひに」を丸読み。 ②感想を付箋に書く。 【目標】「あるはれたひに」を読んで、感想を書こう。			
9/28	①場面の並び替えを行い、内容の復習をする。(板書で) ②感想をiPadで共有する。 ③タイムスケジュール表に気持ちを書き込む。 【目標】ヤギとオオカミの気持ちを考えよう。			
10/13	①グループに分かれて丸読み。(朗読の箇所のみ) ②グループで役割決め。(2～3人×4グループ) 【目標】グループで役割を決めよう。			
10/15	①読み方を考える。(個人) ②役で集まって読み方を考える。 【目標】読み方を工夫しよう。			
10/19	①読み方で工夫しているところを発表する。 ②グループで練習する。 【目標】気持ちに合わせた読み方を工夫しよう。			
10/21	①グループごとに発表 ②相手グループの発表を聞いて、評価表に記入 【目標】練習を生かして発表しよう。			

必要に応じて
iPadで録音

悩みポイント

～心情を考える場面の授業展開について～

全体で心情を考え付箋を貼らせる?場面ごとに割り当てて考えてもらう?

3 本時の展開

授業の流れ	学習活動	手だて及び指導上の留意点
導入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする ○場面の並び替えゲームをする。 ○前時の感想を共有する。 ○希望者は発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の姿勢を確認する。 ・前時で丸読みした「あるはれたひに」の内容を思い出せるよう、イラストをランダムに提示し、並び替えをする。 ・生徒の iPad に AirDrop で感想一覧を送る。 ・希望者を指名し、感想発表を促す。(2人~3人)
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 目標: ヤギとオオカミの気持ちを考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○タイムスケジュール表に気持ちを書き込む。 ○考えたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入できるよう、ワークシートを用意する。 ・一人一箇所を割り当てておき、まずは担当の箇所の気持ちを考えるよう促す。 ・早く終わった生徒は別の場所を選んで、気持ちを考えるように伝える。 ・想像することが難しい場合は、状況を整理して伝えたり、図示したりして、生徒の意見を引き出すようにする。 ・希望する生徒を指名する。 ・生徒が記入している内容を称賛したり、良いところを伝えたりして、発表への意欲を喚起する。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価をする。 ○次時の活動を知る。 ○あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用意する。 ・姿勢を正して挨拶をするように促す。



グループ間の協議内容

- ・心情を考える場面では、グループの中で、それぞれ役割を決めて担当箇所を設けると心情の読み取りもじっくりできるのではないか。
- ・役割を決めて心情場面を考える時間を取ったあと、読み方を考える場面に繋げるのもよいのではないかと。
- ・役割を決めると、この単元の一連をもって生徒たちも振り返りがしやすいのではないかと。

授業の様子



〈使用したタイムスケジュール表〉

<p>オオカミの目が光ることに気づいたヤギ</p>	<p>眠っているヤギの耳を見ているオオカミ</p>	<p>ヤギのおしりを見ているオオカミ</p>	<p>オオカミの弁当が落ちた</p>	<p>ヤギとオオカミが笑いながら話している</p>	【出来事】
【ヤギ】(〇〇くん)	【オオカミ】(谷口先生)	【オオカミ】(〇〇くん)	【オオカミ】(〇〇くん)	【ヤギ】(〇〇くん)	【気持ち】

授業研究会で得られた感想

参観者 A

ICT を使用して生徒の感想を読み合う。ICT を使用することで、生徒の関心を持たせることができていた。



参観者 B

担当を割り当ててあったため各自での振り返りもじっくりでき、次時に繋げることができるようであった。



授業者

予め担当を割り当ててあるため、生徒はスムーズに、じっくり心情を考えることができていた。



まとめ

今回は、授業を行う前にワークシート等をもとに授業者の悩み(壁)を挙げてもらい協議を行った。悩みを共有し、一緒に協議することで授業者も安堵し、その後、スムーズに教材(ワークシート、ICT 教材、副教材...)を作成したり、授業展開を考えたりすることができた。また、授業者の悩みを解決することで、その授業が生徒たちにとって深い学びに繋がると考えられる。

更に、グループ研での協議の結果により、学ばせたいことの的を絞ることで生徒たちにも単元を通しての目標を意識付けることができる。

今後の学校生活の中で体験を通して、「あっ!この場面は〇〇の授業でやったことがある!」と児童生徒たちが気づいたり、そのような場面に遭遇したときに私たちが「〇〇の授業でもこんな場面があったよね。」と児童生徒に立ち止まって考えさせる時間ができたりすると、学びの中で児童生徒自身が活用できたと感じるようになるのではないかと、考える。その体験の積み重ねが児童生徒の力として身につくのではないだろうか。

今後も、単元ごとではなく継続的で、日常的に結びつく授業になるようグループ間でも様々なことを協議していきたい。

